

活動報告書

報告者氏名：工藤 有希子 所属：青森県立青森若葉養護学校 記録日：平成26年 2月14日

【対象生徒の情報】

- ・学年 中学部生徒
- ・病名 若年性線維筋痛症、強迫性障害
- ・障害と困難の内容

外見的には病気からくる痛みと疲労感を抱えていることを感じさせないが、慢性的な体の痛みを感じている。痛みのため長時間の書字や姿勢の保持に困難があり、眠れず、睡眠のリズムが崩れがちである。目覚めてもすぐに起き上がることができないことや疲労感があるため、間隔を空けて週2日の登校を目指している。登校時の学習時間は、1日1、2時間であるため、学習空白が拡大していく恐れがある。また、人の目や言動が気になり、集団に入ることに強い抵抗感がある。

【活動目的】

- ・当初のねらい

今年度は、登校できない場合でも家庭学習を継続的に行い、学力の向上を図ることをねらいとしている。対象生徒は机の前に長時間座ってノートをとるなどといったことは難しいため、iPadを活用することで、書く負担や、一定の姿勢で座ることへの負担を軽減させ、学習効率を上げることで学習時間の確保を図りたい。また、教師や他の生徒たちとコミュニケーションをとるために機器を活用する。対象生徒は写真を撮ったり、加工したりすることが趣味のため、iPadの写真関係のアプリを活用し、趣味の写真を通して、教師や他の生徒たちとコミュニケーションを取ることができるのではないかと考えた。また、定期的に担任とメールのやりとりをすることで、学校とつながる気持ちを持たせ、登校の安定につなげたい。

- ・実施期間

5/7～

- ・実施者

泉 よし子（教諭）、村田 友和（教諭）、工藤 有希子（教諭）

- ・実施者と対象生徒の関係

学級担任：泉、村田 教科担当：国語（村田）、社会（泉）、工藤（美術）

【活動内容と対象生徒の変化】

- ・対象生徒の事前の状況

登校したいという気持ちは持っているが、体調不良のため、制服を着て学校に来るだけでも疲れてしまうとのことである。これまでiPadは使用したことがないが、自分のスマートフォンを持っているほかに、パソコンや母親のiPhoneを操作しているため、iPadの操作について特に問題はない。使ったことのないアプリでも、一度の説明で使い方を覚えることができた。機器の操作やアプリについて教師が知らないことを知っていることもある。

貸出し書で利用のルールを確認し、本人・保護者の署名をもらってから、機器を渡した。対象生徒は登校時必ずiPadを持参し、促さなくても授業時はいつでも使えるよう机の上に置いていた。

・活動の具体的内容

学習（「GoodNotes」、「Keynote」「電卓アプリ」等の活用）

授業の調べ学習で、インターネット検索に使用した。調べた内容を残すため、社会の授業では「GoodNotes」というアプリを使って、ノート作りをした。Yahoo! 百科事典で調べた語句、参考になるホームページの画像や文章をコピーして貼り付け、調べた内容を記録しておくことができるようになった。「GoodNotes」

若葉祭（学習発表会）の事前学習では、「Keynote」を使って、ポスターを作成することができた。

計算が苦手なため、電卓アプリを入れたいと自分から申し出た。宿泊学習の事前学習で、買い物の代金を計算する際に活用した。アプリは自分でデザインの気に入った「Minimalist Calculator」を選んだ。

コミュニケーション（メール、「Tango」、「Facetime」の活用）

メール機能を使い、登校できないときでも、担任と連絡が取れるようにした。また、TangoやFacetime等のアプリを使い、担任とのビデオ通話を試みた。家庭訪問の際に繋がることは確認したが、その後の担任からのビデオ通話の発信や、促しに対する応答はなかった。

趣味の活動（カメラ、「MagicMatrix」「Sysight」の活用）

写真と手品が趣味で、iPadのカメラ機能と、「MagicMatrix」という手品ができるアプリを活用することにした。しかし、iPad2のカメラの性能では対象生徒が思うとおりの写真が撮れなかったため、写真については対象生徒が持っている一眼レフのカメラで撮影することにし、撮影した写真をiPadに入れて管理することにした。手品ができるアプリについては、少し操作しただけで、すぐに触らなくなってしまった。手品は実際の道具を用いて行うほうがよいと思ったようである。



若葉祭（学習発表会）のポスター

・対象生徒の事後の変化

① コミュニケーションについて

今まで欠席の連絡は母親がしていたが、欠席していてもメール機能によって対象生徒と担任が連絡を取り合うことができるようになった。

② 学習について

カメラやノートアプリの活用によって、学習内容が整理できるようになった。授業中に自分で調べる、考えるなど生徒の活動時間が増えた。

【報告者の気付きとエビデンス】

・主観的気づき

家であまりiPadを使用していない。

（考えられること）

体調不良によって活動できなかった。カメラ性能の不満、自宅パソコンとのデータのやりとりのしにくさを話すことがあり、自分のやりたいことがiPad2では、できないことが多かったと思われる。

担任からのメールに返信が少ない。ビデオ通話に応答がない。

（考えられること）

欠席時は、夕方から活動することもあるため、指導者とのタイミングが合わず、担任のメールやビデオ通話に気づかない。返信できないことを気にしており、プレッシャーになっているのではないかと。

課題をメールに添付せず、登校時に提出したり、担任と一緒に取り組んだりした。

（考えられること）

使用時間の夜8時を過ぎてしまうので、メールができなかった。学習では、時間をかけて考えをまとめることが多く、課題について指導者に質問や確認をしながら、学習を進めたいのではないかと。

右の表は、担任及び、対象生徒のメールの送信件数である。担任からは週に2回、定期的にメールを送信した。行事等で必要があるときはさらに追加でメールを送信した。対象生徒からのメールは、担任からのメールに対する返信がほとんどであった。

2学期からビデオ通話によるリアルタイムのやりとりをねらい、欠席時のやりとりを促したところ、返信が減った。2学期は1学期よりも欠席が増えたが、10月から1学期同様、週予定の連絡を中心に行い、週2回程度の送信としたところ、返信率が上がった。

・その他のエピソード

家庭教師と一緒に学習した内容を撮影したものを、自分から教師に見せてくれたことがあった。家庭での学習状況を把握でき、限られた時間で効率的に学習を進めていくために、ICT機器の活用は有効であると考えられるが、iPadだけではなく、スマートフォンやPCなど状況に応じて、適した機器を使っていきたい。

月	メール送信件数		出席日数/ 授業日数
	担任	対象生徒	
5	12	7	7/21
6	9	3	7/20
7	6	4	5/16
8	8	2	2/6
9	14	4	4/19
10	7	3	6/21
11	8	2	5/20
12	6	1	1/15

メールの送信件数と出席日数

【使用したアプリ】

※★印は、生徒の希望でインストールしたアプリ。

※ios7へのアップデートは、アプリによっては上手く動作しなくなる可能性があること、対象生徒がアップデートを希望しなかったこともあり、実施しなかった。アップデートを実施しなかったため、Safariやカメラなどのアイコンは旧型のままである。



① 「Safari」 …内蔵アプリ。ウェブブラウザ。

② 「カメラ」 …内蔵アプリ。写真撮影。

③ 「写真」 …内蔵アプリ。簡易編集、アルバム作成。

④ 「Keynote」 …プレゼンテーションアプリ。

⑤ 「GoodNotes」 …ノート作成アプリ。pdfファイルに手書きのメモが書けるほかに、テキストボックスや画像を挿入したり、フリーハンドできれいな円や直線を描いたりできる。

⑥ 「CamScanner」 …pdf作成アプリ。撮影した写真をpdfファイルにできる。

⑦ 「ロイロノート」 …画像や動画を簡単につなぐことができる。

⑧ 「Pixlr Express」 ★…画像加工アプリ

⑨ 「MagicMatrix」 ★…手品ができるアプリ

⑩ 「Minimalist Calculator」 ★…電卓アプリ

⑪ 「SySight」 ★…システム監視アプリ。バッテリーの残量やメモリの状態を確認し、メモリが圧迫されて端末が重くなることを防ぐ。